



佐藤 文哉

Sato Fumiya

海外かUターンか背中を押した妻の言葉

佐藤文哉さんが、大阪の商社で働いていたのは、海外で仕事をしたいという気持ちがあったからで、そこでの仕事は充実したものだっただけです。しかし、出張や飲み会が多く、帰宅は遅くなる日が続く、娘の寝顔しか見ることができない、ということが悩みだったようです。「そろそろ海外転勤を命じられるかもしれない。そうなる仕事はもっと忙しくなるだろうと思っていました」と、文哉さんは当時を振り返ります。

ちょうどその頃、真庭市で会社を経営しているお母さんから「お客さんより先に、自分が歳をと

真

MANIWA BITO

庭人

つてしまう。うちを信用してくれているお客さんをどうしたらいいのか」という悩みを聞いている時期だったということもあり、文哉さんはUターンを考えるようになりました。そのとき背中を押してくれたのは「いつか帰るなら、両親が元気なうちに帰った方が、いろんなことを教えてもらえる」という妻の有紀さんの言葉でした。

家族で過ごす時間が増えた真庭暮らし

「海外にも行ってみたかったですし、両親も僕が帰ってくるとは思ってなかったですけど……そう思いつつもUターンを決意した文哉さんは、お母さんが経営する会社で働き始めました。「母とは喧嘩をすることも



お母さんが守ってきた
保険オフィスさとう



佐藤文哉さん(上水田)

子どもの頃からの三國志好きが高じて、2011年に中華人民共和国へ留学。そこで後に妻となる有紀さんと出会う。大阪の商社に勤務していたが、2019年11月に真庭市へUターン。2児の父。

ありますが、経営についての素直な思いも聞けます。両親が大事にしている、利益じゃないとこで動かんといけん、人のためにすることが自分のためになる、ということを守っていきたい」。一生懸命に仕事に取り組みつつも、仕事を終えてからは、子どもたちと一緒に遊んだり、晩ごはんを食べたりする時間が取れるようになったそうです。「父も母も、僕には言わないけど、喜んでるんじゃないかな」と文哉さんは笑顔をみせてくれました。

